

すくすく たけのこ

2022.4.15 vol.3



“トライ&エラー”のススメ

桜の花びらが春風に舞い、桜色に彩られた新年度がはじまりました。第3号となる今回は「“トライ&エラー”のススメ」がテーマです。



関西小のノーベル図書館で面白い本を見つけました。その名も『失敗図鑑』。この本には、240人の偉人といきもの・発明品にまつわる失敗が320個も載っています。「大人が読んでも勇気がもらえる」と大反響の本です。多くの伝記では「英雄」「成功者」として紹介されている、いわゆる偉人たち。でもその人たちも、ずっと成功し続けてきたわけではありません。今に名を残すスゴイ人も、たくさん失敗をしてきました。だから、「**失敗しないと人生損だよ!**」くらいの気持ちでどんどん新しいことにチャレンジしてほしい。そんなメッセージが込められた「**勇気の書**」です。



「失敗」と聞いて、思い出すのは「**試行錯誤**」という言葉です。文献学者で作家の山口 謠司（ようじ）さんは、試行錯誤について、こんなことを記しています。



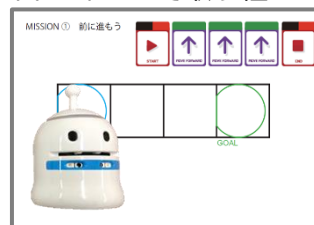
『試行錯誤』という四字熟語は、戦後日本で作られた言葉です。『**試みに行うこと**』、『**試しにやってみること**』を表します。『**錯誤**』とは、『**誤り**』『**間違い**』という意味の他に、『**自分が考えていることと事実が一致しない**』という意味もあります」と。



試行錯誤というと、何か“失敗”や“成功”の繰り返しという細部に目がいきがちですが、大切なのは、何の目的で行っているかという「目的」だと思うのです。

関西小には、学年ごとに10時間程度、「情報」という時間があります。その時間では、iPadやChromebookを使って学習をしたり、プログラミング的思考を学んだりしています。

中でも、子どもたちが目を輝かせて取り組むのが、**プログラミングロボットを使った学習**です。低学年(1・2年生)で使うこのロボットは「TrueTrue」と言って手のひらサイズのかわいい小型ロボットです。パソコンがなくてもカードの指示を読み込ませてプログラミングができます。子ども



たちは、「前に進め」「右に曲がれ」などの指示が書かれたカードを並べて、プログラムを作り、ロボットの「口(くち)」に

カードを差し込んでロボットを動かします。

ロボットは、指示通りに動くので、思うように動かなかったら、**プログラミング(試行)にエラー(錯誤)があったこと**になります。そんな場面で、子どもたちは「**こうじゃない?」「こうすればどう?」**というように、**自分たちのプログラムをふりかえり、修正しています。**

このような活動を通して、子どもたちは、**ゴール(目的地)に到着するという“目的”を達成するためには、「試行錯誤」が必要だということを学んでいる**のです。

「トライアンドエラー(試行錯誤)」のなかには「**サクセス(成功すること)**」なんて入っていません。現実には、パーフェクトはない訳ですから。

「**あ、少しましになった」「あ、ちょっと上手くいった**」ということを繰り返して進んでいるわけですから、**次に進める何かが見つかっただけでも「オッケー」**なのです。



今の世の中には、**失敗を許さない雰囲気**が漂っています。しかし、ふりかえてみれば、私たち大人も失敗しながらここまで生きてきたのです。

だから、子どもに「**大人だって完璧じゃない」「親だって失敗もするよ**」と大いに伝えていいのです。



大人から見ると小さいことのように思える出来事も、子どもの世界では、ものすごく大きな出来事だったりします。**親のちょっと恥ずかしい側面(失敗)を語ることも、子どもの成長エネルギーになります。**

だから、私たち大人は、**子どもの失敗を大らかに受け止められる心を持ちたい**と思うのです。



桜から新緑へと移行行くこの季節、親も子どもと共に、「トライアンドエラー(試行錯誤)」を繰り返しながら、成長を積み重ねる“**輝きの日々**”をめざしていきたいと思います。

最後に、先に紹介した『**失敗図鑑**』に載せられている**名言を紹介し**、今回のコラムの結びとしたいと思います。(晃)



◆ **失敗と書いて、成長と読む。**

(野球選手 野村克也)

◆ **失敗したわけではない。それを誤りだと言っ**
てはいけない。勉強したのだといたまえ。

(発明家・技術者 エジソン)

◆ **下を向いていたら、虹を見つけることはできな**
いよ。 (映画俳優・監督 チャップリン)

